



TITLE:

A. A. V. S. Oの總會に出席して

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. A. A. V. S. Oの總會に出席して. 天界 1924, 4(46): 403-405

ISSUE DATE:

1924-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160177>

RIGHT:

# A. A. V. S. O. の總會に出席して

二八

山 本 一 清

度々、記事に書かれてゐる。

× × × × × × ×

此の會方第十三回春期總會が五月三十、三十一兩日マウン  
ト・ホリヨーク女子大學で開かれるからといふ通知を貰つた  
のは、ずつと、今年の始めの頃であつた。——自分は、渡米  
以前から馴染になつてゐた此の會の會合に、是非一度は出て  
見たいと前からしきりに思つては居たが、去る一九二二年の  
秋以來、常に都合が好くなくて、毎年二回づ 開かれる總會  
に、今まで出席が出来なかつた。此の米國を去る日も近くな  
つて、漸く茲に目的を達することが出来るといふことは、自  
分にまつて、可なり嬉しいことであつた。

× × × × × × ×

マウント・ホリヨーク女子大學は米國東部に於ける有名な  
大學の一つで、ボストン市からは約百哩の道のりである。こ  
の大學天文臺長はシスヤング教授、其の下に、シス・フアー  
ンが助教授をつとめてゐられる。昨秋、自分は、妻と共に、  
ヤング教授の特別な招待を受けて、ヤーキースからハー

『米國變光星觀測者會』(American Association of Variable Star  
Observers)といふ長い名の會が創設されたのは一九一一年のこ  
こであつた。之れは「變光星の簡單な觀測は、専門家でなく  
とも、素人でも充分に出来るものである」

と、前のハーブード天文臺長 E. C. ピケリング教授が熱心に主  
張し、人々を説いた結果、創設されたものであつて、始めは  
會員が僅かに七人であつたといふ。勿論、會の趣意が特に變  
光星の觀測といふことにあるのだから、誰でも星の好きな人  
が、聞いて直ぐ入會する氣にはなれないかも知れないが、そ  
れでも、今日は既に三百人以上の會員數となり、其の地理學  
的分布は單に北米合衆國と言はず、歐洲、アジア、濠洲等に  
も擴がり、又、會員の主な人々は素人天文家であるけれど、  
中には天體物理學の堂々たる大學者たちもあつて、實に、何  
れから見ても、立派な學會であると言つて好い。

我が日本でも、此の會と關係し始めたのは、自分が最初で  
あつたが、其の後、東京の神田氏や、京都の古川、中村兩氏  
等が入會し、我が天界誌上にも『A. A. V. S. O. 會』といふ略名で

グードへ移る途中に此のマウント・ホリヨーク天文臺を訪問し、丸四日も滞留したところがあるので、地理は好くわかつてゐる。それに、今度の會の豫定によれば、

五月三十日、午後 會の役員會、

同、三十一日午前、一同、アマースト大學天文臺を訪問同、同 午後、總會、

さいふプログラムであつたから、自分は（役員では無いから三十日の會に出る必要は無し）三十一日の朝、直接にボストンからアマースト大學へ行つて、遠足して來てゐる一行と合しやうと決心した。アマーストも昨秋往つたところがあるからグリーン教授始め、知り合ひの仲である。

× × × × ×

三十一日午前六時四十分さいふ早い汽車で、自分は獨りボストン北停車場を出發した。鐵道はボストン・メーン線さいふので、此れで西に向ふのは始めてである（昨秋はボストン・オルバニー線であつた）から、窓から何か變つた景色でも見えないかと思つてゐたが、米國の景色は此の歴史的なニウ・イングラントでも、やはり單調である。九時頃、バーリン驛を通過して間もなく、可なり美しい湖水の景色が見えたきりで、其のほかは何も眼を惹くものもなく、汽車は十時五十分にはアマースト驛に着いた。驛の汽車時間は十時五十分であるけれども、町の一般の人々は夏期時間を使つてゐるから、今は既に

十一時五十分なのだ。大急ぎ、會員一行がマウント・ホリヨークへ歸つて行かない前に………と思ひつゝ、知つてゐる地理を幸ひ、大學天文臺へ馳けつけたが、残念にも、一行は今數分間前に自働車で去つたさいふ跡で、グリーン教授が一助手と共に、十八吋の望遠鏡で金星を見てゐるところであつた。残念だけれど仕方が無い。

「御覽になりませんか」

さう、められるがまゝに、自分も一寸臺の上に上つて美しい三日月形の金星の姿を見、それから、

「午後、また、マウント・ホリヨークで御目にかゝりませう。

私は一足御先へ」

と挨拶して、電車で女子大學に行く。

× × × × ×

女子大學のある南ハドレイ村へ着いて見れば、變光星會の一行は丁度今カンジ・インで晝食の最中であつた。それで早速自分も其の中にさび込み、ゴドフレイ、マカテア等の諸君と同じ卓につく。——アメリカ天文學會さいふ専門家の會合には、自分は今までに三度も出席したところはあるが、其れ等と比べると、此の素人たちの天文會合は丸つきり氣分が違つてゐる面白い。あちらでは

「土星の輪は、いつたい、何から出來てゐるのだい？」

さいふ質問を發して、隣りの兄い分に教へて貰つてゐる人が

あるかと思へば、こちらでは、又、

「一時の三十萬分の一だ、ハ、ハ、ハ、ハ、」

ミ大聲に言つて、反射鏡の隨圓曲面ミ球面ミの違ひを食卓の上で數學好きに計算して貰つて笑つてゐる人もある。人氣者のD B ピケリング君が

「僕は死んだE C ピケリング先生ミは親類では無いんだ。残念だけれど……」

ミ自分の系圖の説明を向ひの人に聞かせてゐる。又、一隅では今朝の汽車の中の出來事を話し合つてゐる。

食事後、一同は天文臺の入口へ集まり、それから暫くの間二三人づゝの上級の女學生たちに案内されて、學内の庭園や建物なぎを見てゐる。

X X X X X X

午後二時半から、一同は大學天文臺の中の廣い講義室に集まり、總會が開かれる。ミス・ヤング教授は此の變光星會の會長であるから、座長席につき、先づ諸係りより事務の報告あり。それから、研究の報告に移る。研究報告の中で、第一にレオン・カンベル氏は「本會ミ英國天文協會變光星部ミの比較」ミいふ題で、本會が創立以來既に十七萬回の變光觀測を成し遂げたことなぎを誇り顔に報告した。因みに、現在、アジアから報告を送つて來る觀測者の數は七名であるが、其の内六名は日本からであるといふことも報告中にあつた。

次に、J E G ヤルデン氏は北極星を觀て赤道儀を据付ける方法に關する自己の經驗上の一文をよんだ

次に、自分は「ボン星表中の變光星の數ミ分布について」ミいふ題で簡單な研究を紹介した。(内容は別頁の通り。)

最後に、ヤーキーに天文臺のバークハースト教授の「ハーゲン」變光星圖の新版について「いふ一文をミス・ツァーンチース氏が代讀した。

それから、マカテア君が近頃死んだマクドール氏(ピツバーグのプレシア會社の有名な技師)の小傳を述べて、こゝに總會を終り、四時から、皆打揃つてピアソン館に於いて大學職員及び學生たちの饗せらるゝ御茶を頂いた。

X X X X X X

午後七時から、カレジ・インで記念晚餐會が開かれたが、之れが亦實に愉快なものであつた。デサート・コースに入つて、座長はD B ピケリング君が承り、先づ、女子大學教頭ミス・バリーントンの挨拶があり、次で、S E ヘイス教授の「色盲」に關する講演があつた。それから座長のユーモラスを紹介ミ共に、ミス・A J カノン、ミス・H W ビゲロー、W K グリーン教授C C ゴトフレイ氏及び自分の順序で卓上演説をやつた。

かうして會は和氣霽々の中に閉會となり、翌日各自は歸途についた。(一九二四・七・一六、ハーグード天文臺にて)